



準備ガイド

2021年04月版

Copyright © EXIN Holding B.V. 2021. All rights reserved.  
EXIN® is a registered trademark.

No part of this publication may be reproduced, stored, utilized or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, or otherwise, without the prior written permission from EXIN.



# 目次

1. 概要	4
2. 試験要件	7
3. 基本概念の一覧	10
4. 文献	12

# 1. 概要

EXIN Agile Business Professional (ABP. JP)

## 範囲

EXIN Agile Business Professional は、以下のトピックについての専門知識を認定します。

- アジャイルマインドセット
- アジャイル文化の促進
- ビジネス価値の最適化
- 組織内でのアジャイルの拡大と持続

## 要約

EXIN Agile Business Professional の認定資格は、アジャイルの原則とマインドセットをビジネス全体に適用するために必要な知識とスキルをカバーしています。EXIN Agile Business Professional の認定を受けたスタッフは、生産、運用、サポートのプロセスを含む組織の全領域でアジャイルな考え方と働き方を推進します。

EXIN Agile Business Professional の認定資格は通常、ビジネスを実践的に理解し、戦術的な役割を担う専門家を対象としています。この資格を取得したスタッフは、企業の機敏性から最適な価値を実現するための実践的サポートを提供し、必要に応じてチームを結び付けることができます。Agile Business Professional は、測定、見える化、コミュニケーションの適切な手段を用いて、アジャイル文化に必要な透明性をサポートします。

EXIN Agile Business Professional の認定を受けたスタッフは、プロセス、製品、サービスを分析し、ビジネス価値、市場投入スピード、品質を最適化することができます。彼らは、アジャイルマニフェストの原則を深く理解し、真の意味でのアジャイルマインドセットを持っています。彼らは、特定の状況で役立つアジャイルプラクティスを適用することができます。彼らは、アジャイルへの移行の成功を妨げる障害を取り除き、企業の持続的な企業の機敏性の達成を支援します。

## 背景

EXIN Agile Business Professional 資格は、EXIN Agile Scrum 資格プログラムの一部です。



### AGILE LAYER



### AGILE SCRUM LAYER



### BUSINESS AGILITY LAYER



## 対象グループ

EXIN Agile Business Professional 認定資格は、アジャイル企業やアジャイル移行中の組織で働く専門家や、ビジネスの機敏性を目指す市場トレンドを反映させて自身の専門知識を更新したいと考える専門家に合わせてカスタマイズされています。

これには以下が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

- マーケティング、生産、運用など、さまざまなビジネス領域の専門家
- 人事の専門家
- 事業開発担当者またはビジネスアナリスト
- プロダクトマネージャー
- コンサルタント
- (事業) 部門マネージャーまたはチームリーダー
- (IT) サービスマネージャー、プロセスオーナーまたはサービスオーナー
- アジャイルチームや DevOps チームで働く専門家 (例: スクラムマスター、プロダクトオーナー、DevOps エンジニア、トライブリーダー、スクワッドリーダーなど)

## 認定のための要件

- EXIN Agile Business Professional 試験の合格。
- 実践課題の修了。

認定されたトレーニングを強くお勧めします。



## 試験の詳細内容

試験の形式:	多肢選択形式
問題数:	30
合格点:	67% (20/30 問題)
参考書の持ち込み:	不可
ノートをとる:	不可
電子機器の持ち込み:	不可
試験時間:	90 分

EXIN の試験規則はこの試験に適用されます。

## ブルームレベル

EXIN Agile Business Professional 試験では、ブルームの改訂版タキソノミーに基づき、ブルームレベル 2、およびレベル 3、およびレベル 4 で受験者をテストします。

- **ブルームレベル 2：理解すること。** 記憶よりも上のステップです。理解とは、受験者は提示された内容を把握しており、その学習教材が自分の環境でどのように応用可能かを評価できるということを示します。この種の出題問題は、受験者が事実やアイデアの正しい説明を体系化、比較、解釈及び選択できることを証明することを目的としています。
- **ブルームレベル 3：応用 - 認定候補者は、学習した内容を異なるコンテキストで活用できる能力があることを示します。** このタイプの質問の目的は、認定候補者が取得した知識、事実、手法、およびルールを異なるまたは新しい方法で応用でき、新しい状況で問題を解決できること示すことです。この質問には、通常、ショートシナリオが含まれます。
- **ブルームレベル 4：分析 - 認定候補者は、学習内容を細分化して理解する能力があることを示します。** このブルームレベルは、主に実践課題でテストされます。このような実践課題の目的は、認定候補者が誘因や原因を特定することによって情報を分析および細分化して推論し、一般論化を支援する証拠を突き止める能力を示すことです。

## トレーニング

### 授業時間

この教育コースの推奨受講時間は 14 時間です。この中に実践課題、試験準備、休憩なども含まれます。時間の中に含まれないのは、宿題、ランチ時間、試験時間です。

トレーニング提供者は、次のどちらかを選択可能です。

- 実践課題
- 実践課題の要求レベルに合致した演習課題

### 学習時間の目安

112 時間 (4 ECTS)、個人が習得している知識によります。

### 教育事業者

認定教育事業者のリストを [www.exin.com](http://www.exin.com) で参照できます。

## 2. 試験要件

試験要件は、試験仕様に明記されています。以下の表にモジュールトピック（試験要件）とサブトピック（試験仕様）の一覧を示します。

試験要件	試験仕様	配分
<b>1. アジャイルマインドセット</b>		<b>20%</b>
	1.1 アジャイルの識別	10%
	1.2 アジャイルマインドセット	6, 7%
	1.3 IT 以外の分野におけるアジャイル	3, 3%
<b>2. アジャイル文化の促進</b>		<b>17%</b>
	2.1 組織の価値観に基づいたアプローチ	3, 3%
	2.2 見える化とコミュニケーション	3, 3%
	2.3 測定	6, 7%
	2.4 継続的な改善	3, 3%
<b>3. ビジネス価値の最適化</b>		<b>20%</b>
	3.1 ビジネス価値	10%
	3.2 障害要因の除去	3, 3%
	3.3 開発時間の短縮と品質の向上	6, 7%
<b>4. 組織内でのアジャイルの拡大と持続</b>		<b>43%</b>
	4.1 アジャイル移行の開始	6, 7%
	4.2 最初の作業の進め方の設計	16, 7%
	4.3 組織全体へのアジャイルの拡大	10%
	4.4 アジャイル文化の維持	3, 5%
	4.5 成功する移行の維持	6, 7%
	<b>合計</b>	<b>100%</b>

## 試験仕様

### 1 アジャイルマインドセット

- 1.1 アジャイルの識別  
次のことが行える…
  - 1.1.1 組織内のアジャイルを識別する。
  - 1.1.2 アジャイルで問題が発生する理由を特定する。
  - 1.1.3 現在の作業の働き方とアジャイルの異なる点を特定する。
- 1.2 アジャイルマインドセット  
次のことが行える…
  - 1.2.1 アジャイルマインドセットを説明する。
  - 1.2.2 アジャイルマインドセットを識別する。
- 1.3 IT以外の分野におけるアジャイル  
次のことが行える…
  - 1.3.1 アジャイルがIT以外のチームにもたらす効果を説明する。

### 2 アジャイル文化の促進

- 2.1 組織の価値観に基づいたアプローチ  
次のことが行える…
  - 2.1.1 戦術や選択が組織の価値観、戦略、目的にどのように基づいているかを説明する。
  - 2.1.2 戦術や選択が組織の価値観、戦略、目的に基づくべきである理由を説明する。
- 2.2 見える化とコミュニケーション  
次のことが行える…
  - 2.2.1 作業の見える化の重要性を説明する。
- 2.3 測定  
次のことが行える…
  - 2.3.1 チームとの関連性が最も高い基準と測定値を決定する。
  - 2.3.2 目標と成果（OKR）を決定する。
- 2.4 継続的な改善  
次のことが行える…
  - 2.4.1 アジャイルプラクティスが継続的な改善にどのように貢献するかを説明する。

### 3 ビジネス価値の最適化

- 3.1 ビジネス価値  
次のことが行える…
  - 3.1.1 価値創造を中心としたチームの編成方法を説明する。
  - 3.1.2 ただ一つの価値に焦点を当てる方法を説明する。
  - 3.1.3 ビジネス価値に基づいて作業に優先順位をつける方法を説明する。
- 3.2 障害要因の除去  
次のことが行える…
  - 3.2.1 チームにとっての障害要因を取り除く方法を説明する。
- 3.3 開発時間の短縮と品質の向上  
次のことが行える…
  - 3.3.1 システムの安定化によって、どのように開発時間が短縮され、品質が向上するのかを説明する。
  - 3.3.2 仕掛（WiP）を制限することによって、どのように開発時間が短縮され、品質が向上するのかを説明する。



## 4 組織内でのアジャイルの拡大と持続

### 4.1 アジャイル移行の開始

次のことが行える…

- 4.1.1 アジャイルに移行する準備ができているかどうかを判断する。
- 4.1.2 管理者がアジャイルへの移行に向けて準備する方法を説明する。
- 4.1.3 チームがアジャイルへの移行に向けて準備する方法を説明する。
- 4.1.4 直接関与していないスタッフをアジャイルへの移行に向けて準備する方法を説明する。

### 4.2 最初の作業の進め方の設計

次のことが行える…

- 4.2.1 関連する行動原則を決定する。
- 4.2.2 ワークフローを設計する。
- 4.2.3 チームの構造を提言する。
- 4.2.4 特定のチームに関連するプラクティスを特定する。

### 4.3 組織全体へのアジャイルの拡大

次のことが行える…

- 4.3.1 アジャイルではないチームにアジャイルを導入する機会を識別する。
- 4.3.2 実用的なアジャイルという考えをチームに導入するための妥当なアプローチを決定する。
- 4.3.3 組織の中でアジャイルを拡大する方法を説明する。

### 4.4 アジャイル文化の維持

次のことが行える…

- 4.4.1 最初の数か月間チームをサポートする方法を説明する。

### 4.5 成功する移行の維持

次のことが行える…

- 4.5.1 チーム内での自己組織化とコラボレーションを促進する方法を説明する。
- 4.5.2 サーバントリーダーシップとは何かを説明する。

### 3. 基本概念の一覧

この章では、認定候補者が習熟しておく必要がある用語と略語を示します。

これらの用語の知識だけでは試験に十分ではないことに注意してください。受験者は、その概念を理解し、例を提示できる必要があります

英語	日本語
affinity mapping	相関図
Agile	アジャイル
Agile adoption/transition/transformation	アジャイルの適用／アジャイルへの移行／アジャイルへの変化（変質）
Agile culture	アジャイル文化
Agile Manifesto	アジャイルマニフェスト
Agile mindset	アジャイルマインドセット
all-hands-on-deck strategy	全てを開示する戦略
artifacts	作成物
awareness	気付き
backlog	バックログ
beliefs	信念
business agility	ビジネスの機敏性
business value	ビジネス価値
change	変化
collaboration	コラボレーション
collocated teams	一か所に集まったチーム
commitment	コミットメント（約束）
communication	コミュニケーション
compliance	コンプライアンス
constraints	制約
continuous improvement	改善
cost of change	変更の費用（コスト）
cross-functional teams	機能横断的なチーム
customer	顧客
daily stand-up/daily meeting	スタンドアップ／朝会
definition of Done	完了の定義
deliverables	提供物
Done	完了
enterprise agility	企業の機敏性
expanding Agile	拡大アジャイル
feedback	フィードバック
feedback loop	フィードバックループ
flow	流れ／フロー
generalist	一般職
hand-off	手渡し
holistic view	全体像
impediments	障害
intake of work	仕事の受け入れ
iteration	反復／イテレーション

Key Results (KRs)	主要指標 (KR)
kickoff	開始 (キックオフ)
measurements	測定
metrics	メトリクス
Objectives	目標
Objectives and Key Results (OKRs)	目標と成果 (OKR)
operating principles	行動原則
plan board/Kanban board	計画ボード/カンバン・ボード
planned work/unplanned work	計画された仕事/未計画な仕事
principles	原理
priorities/prioritizing	優先順位/優先順位付け
processes	プロセス
purpose	目的
self-organization	自己組織 (自律した組織)
servant leader/servant-leadership	サーバントリーダー/サーバントリーダーシップ
single outcome of value	ただ一つの価値
single-piece-flow	一個流し
specialist	専門家
speed to market	市場へのスピード
stakeholders	関係者
swimlane	スイムレーン
tactics	方策
team	チーム
team autonomy	チーム自治
test-driven development	テスト駆動開発
time to market	市場へのアクセス
time-box	タイムボックス
tools	道具 (ツール)
value	価値
value creation	価値創造
value stream	価値の流れ
values	価値
velocity	ベロシティ
visualization	見える化
Waterfall	ウォーターフォール
work item	作業項目
workflow	ワークフロー
work-in-progress (WiP)	仕掛

## 4. 文献

### 試験の参考文献

試験に必要な知識は、次の文献に記載されています。

- A. Gil Broza  
**Agile for Non-Software Teams: A Practical Guide for Your Journey**  
 3P Vantage Media (2019年12月23日)  
 ISBN-10: 0988001659  
 ISBN-13: 978-0988001657
- B. Christina Wodtke  
**Introduction to OKRs**  
 O'Reilly Media, Inc. (2016年6月)  
 無料ダウンロード: [https://bit.ly/ABP\\_literature\\_OKRs](https://bit.ly/ABP_literature_OKRs)

### 参考文献の表

試験要件	試験仕様	参考文献
<b>1. アジャイルマインドセット</b>		
	1.1 アジャイルの識別	A: 1、2、5、10章
	1.2 アジャイルマインドセット	A: Foreword (序文) A: Introduction (はじめに) A: 2、3章
	1.3 IT以外の分野におけるアジャイル	A: ドキュメント全体 A: 1章
<b>2. アジャイル文化の促進</b>		
	2.1 組織の価値観に基づいたアプローチ	A: 2章
	2.2 見える化とコミュニケーション	A: 7章
	2.3 測定	A: 9、10章 B
	2.4 継続的な改善	A: 7、8、9、10章
<b>3. ビジネス価値の最適化</b>		
	3.1 ビジネス価値	A: 7章
	3.2 障害要因の除去	A: 2、7、8、9章
	3.3 開発時間の短縮と品質の向上	A: 7、8、9、10章
<b>4. 組織内でのアジャイルの拡大と持続</b>		
	4.1 アジャイル移行の開始	A: 3、4、6、8章
	4.2 最初の作業の進め方の設計	A: 4、8、9章
	4.3 組織全体へのアジャイルの拡大	A: 2、5、10章
	4.4 アジャイル文化の維持	A: 9章
	4.5 成功する移行の維持	A: 7、8、9章





Driving Professional Growth

EXIN の連絡先

[www.exin.com](http://www.exin.com)